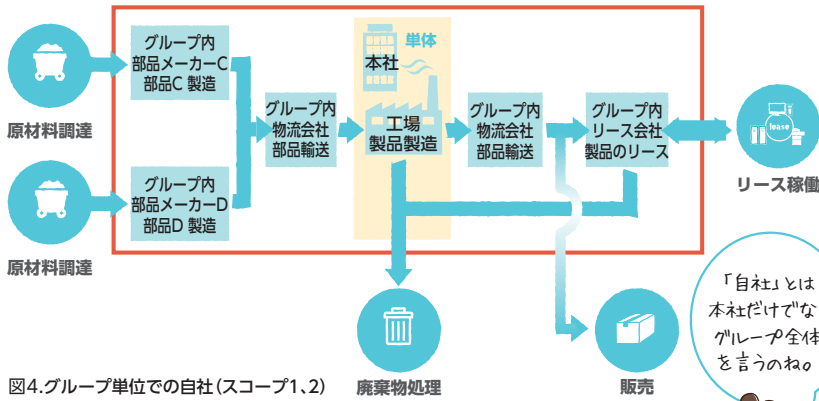




## 第2章

# 算定対象範囲の確認

### 1 グループ単位を自社の範囲とする考え方



算定・報告・公表制度はグループ単位ではなく個社を自社の範囲として対応しますが、サプライチェーン排出量ではグループ単位を自社の範囲として対応する必要があります。特に、グループ内企業との取引がある場合は注意が必要です。



## どこまで、いつまでが算定対象か知ろう

### 2 算定対象とする排出量が実際に排出される年度

表2.算定対象となる活動が実際に排出している時期

スコープ3カテゴリ	過去	報告年度	将来
1 購入した製品・サービス		■	
2 資本財		■	
3 スコープ1、2に含まれない燃料及びエネルギー関連活動		■	
4 輸送、配送(上流)		■	
5 事業活動から出る廃棄物			■
6 出張		■	
7 雇用者の通勤		■	
8 リース資産(上流)		■	
9 輸送、配送(下流)		■	
10 販売した製品の加工		■	
11 販売した製品の使用		■	
12 販売した製品の廃棄		■	
13 リース資産(下流)			■
14 フランチャイズ		■	
15 投資		■	

自社の活動からの排出量(スコープ1,2)については、算定対象とした報告年度に実際に燃料消費などで排出した排出量が該当します。一方、スコープ3排出量(サプライチェーンの上流や下流の排出量)の排出時期は、算定対象とした報告年度とは異なる場合があります。



## 算定の範囲について ひとつひとつ確認しよう

パンフレットを見ながら進めよう。ステップ1はクリアできたわ。ステップ2は【算定対象範囲】ね。

【温室効果ガスの範囲】は、Cさんが担当している【算定・報告・公表制度】の【ガスの種類】と同じね。あとCさんに聞こう。

【組織的範囲】は、①グループ会社全体とその上流と下流か。既に社内にあるデータがどんなものがあるかによるわね。スコープ1・2はCさんが担当されている算定・報告・公表制度の対象だから、あとで聞いてみよう。

【地理的範囲】は、国内と海外、当社も海外に畑や加工場があるし、海外から原材料を調達しているから、データはありそうね。

【活動の種類】は、温室効果ガスの排出に関わるすべての活動か。お客様が、当社のパスタソースをゆでるときに鍋を温めるガスとか、パスタにかけて電子レンジで温めるなら、電気の排出量も必要かもしれないわね。

取組事例のイメージ

個社別に取組事例を確認できる

1 電子機器 A 社

2

1 食品 W 社

各社の考え方

□算定を行う背景・目的

- 温暖化ガス(GHG)総排出量を「見える化」することにより、事業の全体像を把握し、長期戦略の策定に役立てるため。
- 商品ごとのLCAを計算することにより、商品の環境影響の状況を把握し、商品改定の方向性や新規技術開発の方向性判断の素材とする。
- ステークホルダーの事業の情報開示の要求にこたえるための情報を整備する。

□算定結果の活用方法

- 社内での長期戦略目標を設定する際の基礎情報として用いる。
- 商品開発、技術開発に役立てる。
- 各種アンケートへの回答。

□算定のメリット

- 商品、事業において、サプライチェーンのどの部分の環境負荷が大きいかを把握できるため、次の戦略を立てるための素材となる。
- 何に取り組むべきか、対象が明確にできる。

□社内での算定体制

- 全体取りまとめ：本社 環境・安全部
- 商品のLCA計算：研究所
- 情報提供：各事業部門、海外含む連結子会社、サプライヤー
- 代表的商品のLCAでのGHG排出量を精査し、それらの商品を製造販売した際のGHGの総和を外挿し、事業のGHG排出量を算定する方針をとる。
- LCA算定済の7商品については、その算定結果の妥当性について第三者の限定的保証を受けている。

1 建設業 G 社

2

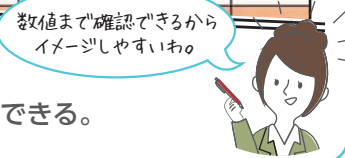


▶ 会社ごとに、算定の目的や結果の活用方法を確認することができる。

業種別算定事例集のイメージ

業種別に算定事例を確認できる

カテゴリ	排出量 ①×②	割合		該当する活動	活動量		排出原単位	
		% (SC3)	% (SC123)		①数値	単位	②数値	単位
1 購入した製品・サービス	805,563	71%	60%					
算定対象範囲 国内の環境マネジメントシステムの対象範囲、ただしグループ会社については売上比率からみなし算定	127,995			精米	80500	千t	1.59	t-CO2/t
	47,690			小麦粉	50200	千t	0.85	t-CO2/t
	53			塩	500	千t	0.106	t-CO2/t
	1,340			砂糖	1000	千t	1.34	t-CO2/t
	84,324			麦芽	72,693.4	千t	1.16	t-CO2/t
	24,189			煎原料	40,113.7	千t	0.603	t-CO2/t
	1,169			ポップ	551.2	千t	2.12	t-CO2/t
	54,716			びん	55,101.4	千t	0.993	t-CO2/t
	176			ラベル	80.1	千t	2.2	t-CO2/t
	653			王冠	239.3	千t	2.73	t-CO2/t
	173,186			アルミ缶	18,134.7	千t	9.55	t-CO2/t
	9,397			段ボール	11,287.5	千t	0.834	t-CO2/t
	25,776			板紙	5,124.5	千t	5.03	t-CO2/t
	0							
	49,003			リネンサプライ	30	250	531	2.3
	185,939			他グループ会社みなし	619,664	t-CO2	30	%
2 買本社	12,720	1%	1%					
算定対象範囲 国内の環境マネジメントシステムの対象範囲	8,450			酒類	3000	百万円	3.15	1000/百万円
	3,200			外食	1000	百万円	3.20	1000/百万円
3 エネルギー関連活動	102,185	9%	8%					
算定対象範囲 国内の環境マネジメントシステムの対象範囲	84,960			電気	240,000	MWh	0.354	kgco2/kwh
	15,925			都市ガス	35,000	千m3	0.458	kgco2/m3
	1,290			高気	92,058	GJ	0.0138	kgco2/MJ
4 輸送、配送(上流)	53,165	5%	4%					



▶ 業種ごとに、算定方法や活動量・排出原単位の選択の例を確認することができる。

まとめ

環境省のウェブサイトには、会社別・業種別にさまざまな取組みの資料が掲載されている。自社と同じ業種、似た取組みを参考にできる。特にどんなカテゴリを対象にしているかは、自社の算定を行う上でも重要なポイントになる。

【時間的範囲】の解説を読んでも意味がわからないわ。この表を見ると、②カテゴリによっては、報告対象年度だけじゃなくて、過去と将来の排出量を算定するのね。一年間だけじゃないのね、思ったより大変かも…。既に社内にあるデータでそこまで集められるかな？

とりあえず先を読んでみよう。パンフレットのステップ3は、スコープ3活動の【各カテゴリへの分類】。この表なら、B部長の指示「どんなデータが必要かを整理」の参考にできそう。

次は…あ、なんだ！「データ収集先」の例も整理されている。このパンフレット使えるわね。これと、さっきCさんに教えてもらった、⑤環境省ウェブサイトの「取組事例」と「業種別算定事例集」の食品メーカーの事例を参考にしたら、整理表ができそうね。部長の宿題がすぐにできちゃったわ。